

2026 年度 天使大学大学院看護栄養学研究科
看護学専攻【保健師コース】

一般選抜（I 期）

「専門科目（保健師）」

試験日：2026 年 1 月 24 日（土）

時間：9：30～10：30

答案作成上の注意

1. 問題紙は 3 枚です。
2. 解答用紙は 4 枚です。
3. 試験開始の合図のあとに問題紙、解答用紙が配られているか必ず確認してください。
4. 試験開始の合図のあとに解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
5. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
6. 解答用紙は横書きです。
7. 解答用紙が不足した場合、または交換したい場合は挙手してください。
8. 問題紙・解答用紙とも回収します。

天使大学大学院

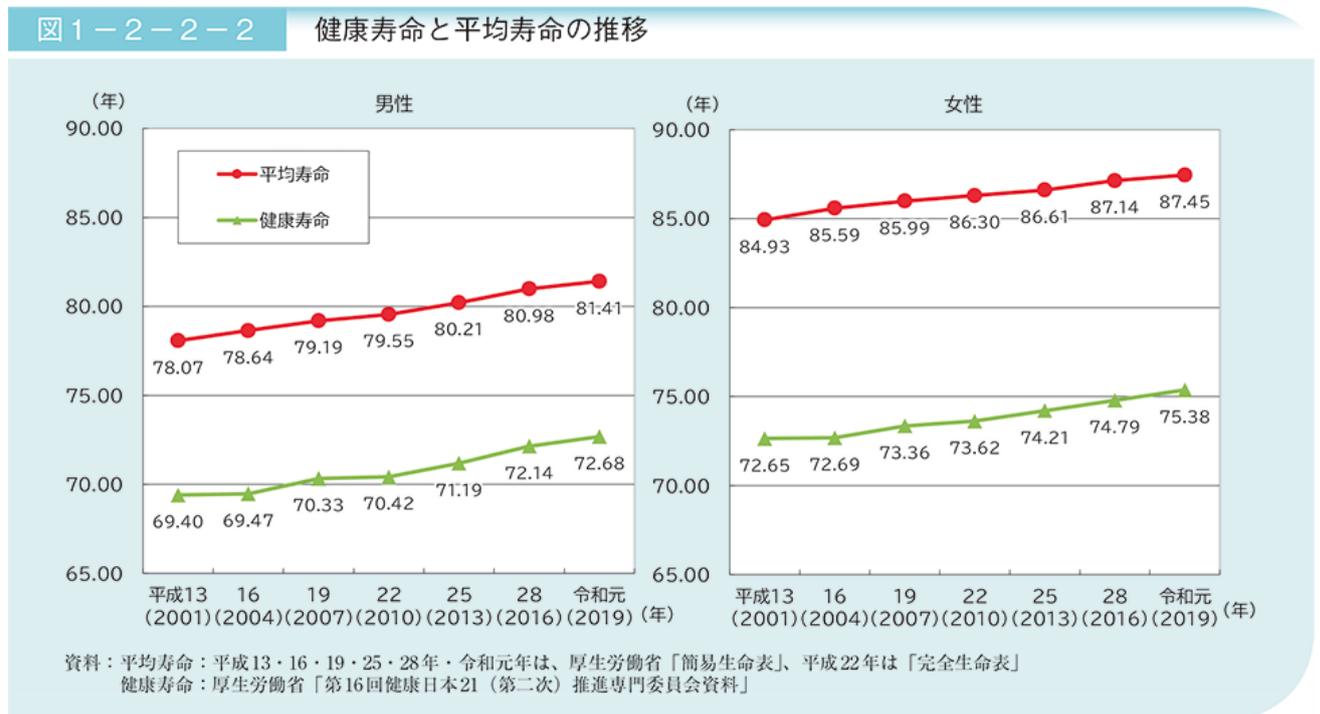
問題 1 下記の 図 1 健康寿命と平均寿命の推移の図を見て、以下の問いに答えなさい。

問 1 健康寿命とは何か述べなさい。

問 2 図 1 健康寿命と平均寿命の推移 の図から、読み取った内容を述べなさい。

問 3 平均寿命と健康寿命の推移の読み取りから、保健医療が目指すべき方向性とその理由を述べなさい。

問 4 問 3 で考えた目指す方向性に向けて、取り組む必要のある対策について述べなさい。



問題2 下記の図2 日本の主な死因別にみた死亡率（人口10万対）の年次推移を見て、以下の問いに答えなさい。

問1 下記の図2 日本の主な死因別にみた死亡率（人口10万対）の年次推移の
A B C D E に当てはまる死因を記入しなさい。

問2 Aの死亡率を低下させるための対策について述べなさい。

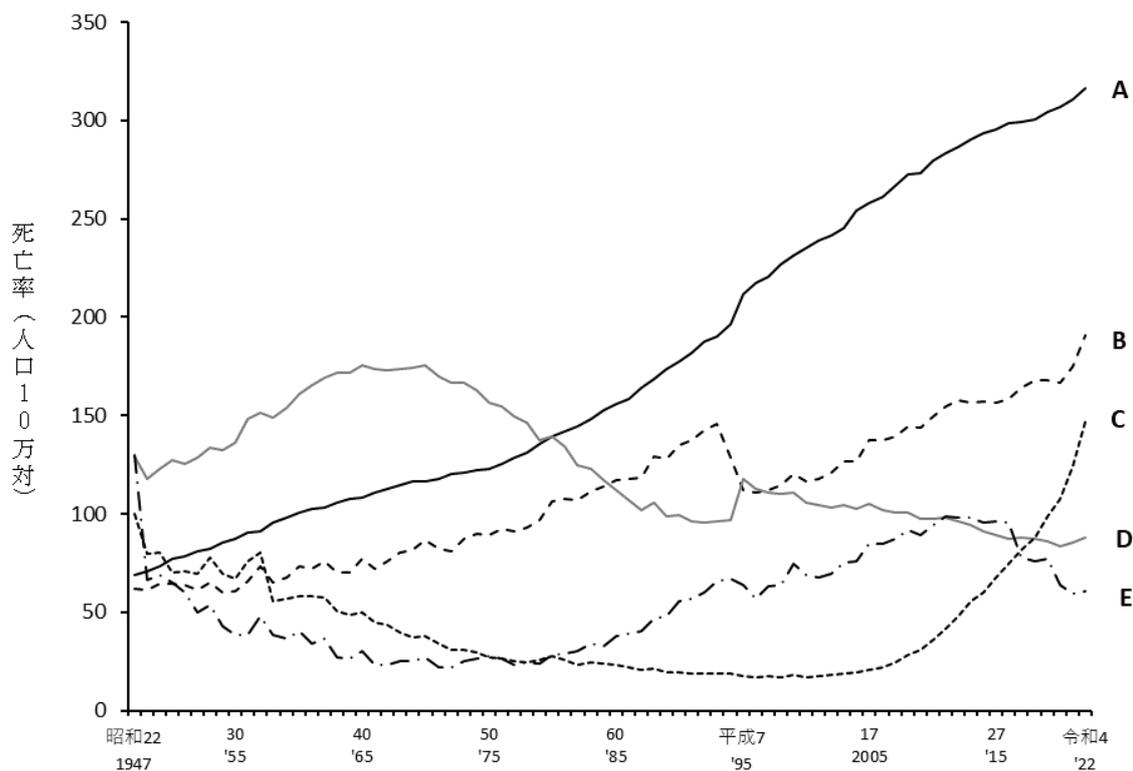


図2 日本の主な死因別に見た死亡率（人口10万対）の年次推移

問題3 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

Aさん（75歳、女性）、夫（76歳）と二人暮らし。

パーキンソン病（ホーンヤールⅢ）、高血圧、脂質異常症

要介護2、日常生活自立度A2、認知症高齢者自立度I

Aさんは、50歳ころに受けた健診で、高血圧と脂質異常症を指摘され、内服治療を続けている。5年前に、ふらつくことや転ぶことが多くなり、受診をしてパーキンソン病の診断を受けた。服薬の継続でしばらくは、安定していたが、徐々に身体の動きが悪くなってきている。2年前に、薬剤調整入院時に主治医に進められて、訪問看護が開始となった。現在、訪問看護を週1回、通所リハビリテーションを週1回受けている。前回の外来受診時に、足がすくんで転びやすくなったことを主治医に相談し、レボドパ<L-dopa>を一日4回に増量をして様子を見ることになった。

現在、歩行は、すり足気味の小幅歩行、バランスを崩すと立ち直りが遅れる。前傾姿勢。動作は緩慢で、椅子からの立ち上がりに時間を要する。緊張が強いと戦慄が軽度出現する。言葉は小声で聞き取り難い。夜間の発汗が多い。排泄は1~2日に1回で、便秘薬を服用している。

家の中は、家具や手すりにつかまり移動しているが、「転ぶと危ないし、父さんにも悪いから、あまり動かない方が良くと思う」と話している。気が向いたときは台所に立って簡単な調理をする。以前は、シルバーカーを押して、夫と近くのスーパーに買い物に行っていたが、最近、雪道では出かけられないと、居間のソファで、テレビを見て過ごすことが多い。午前中は動くのが辛く、身体の動きもわるいと言っている。食事は、自力で摂取しているが、時間がかかる。時々むせがあり、こぼすことが増えている。トイレは手すりがあり、日中は自力で可能だが、夜間はベッドから立ち上がる時に支えが必要で夫の介助を受けている。入浴は、通所リハビリテーションで週1回、自宅では、2日おきに入浴している。「いつもと違う時間に入浴をしたら転んでしまった。」と話している。洗面、歯磨き、更衣は、自力で行っている。夫は、高血圧で服薬治療中。夫が家事のほとんどとAさんの世話をしている。「Aさんのできることが少なくなって、手助けが必要なことが増えてきた。自分が倒れたらと思うと不安だ。」と夫は話している。

問1 パーキンソン病の運動症状を4つあげて説明しなさい。

問2 パーキンソン病の非運動症状を4つ以上あげて説明しなさい。

問3 Aさんの現在の状況を、疾患、治療をふまえてアセスメントし、その内容を記述しなさい。

問4 Aさんと家族の事例のアセスメントから考えられるヘルスニーズ（看護問題）を列挙しなさい。

問5 優先度の高いヘルスニーズ3つについて、目標を設定し、看護計画を立案しなさい。